

令和 5 年度 県立荃崎高等学校自己評価表

目指す学校像	社会人として求められる基礎学力及び生活習慣を身に付けさせるとともに、自己の将来を見据えた職業観、勤労観に基づく進路実現を支援し、豊かな人間性を備えた社会人の育成に努める。 1 生徒・教職員、共に学び合う学校 2 生徒・教職員の信頼関係が構築された学校 3 懇切丁寧な指導・きめ細かな指導を実践する学校 4 一人ひとりの個性に応じた多様な進路実現が図れる学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	基本的な生活習慣を身につけた人材 豊かな人間性を備えた人材 社会人としての教養と規範意識を身につけた人材	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による生徒の進路実現 ・習熟度に応じた選択科目の設定（基礎基本を目指す科目、発展的な考察を深める科目） ・興味・関心に応じた選択科目の設定（活動的な科目） ・学んだことを発表したり、試したりする場の設定（文化祭による発表や展示、資格試験や検定試験）	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	思いやりを持ち、自他を尊重して信頼を築こうとする生徒 基本的生活習慣を身につけ、健康な生活を心がける生徒 学校や社会の規範を守って日常生活ができる生徒 意欲的・主体的に学習や行事に取り組める生徒 自己実現に向けて日々努力する生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<成果> ①学習指導の工夫・改善により、生徒の基礎学力が向上し、学び直したいという意欲を持つ生徒が増加している。 ②基本的な生活習慣が身に付いていない規範意識に欠ける等の生徒は徐々に減りつつあり、落ち着いた学校生活を過ごせるようになった。 ③生徒の能力・適性等に応じて、四大・短大・専門学校進学から就職まで多様な進路実現に対応している。 ④三部制定時制単位制高等学校の特徴を広く周知したことにより、地域や近隣中学校における本校に対する評価が改善・向上しており、特別な支援を要する生徒に係る引き継ぎについても中学校の理解が進んだ。 ⑤教職員の勤務時間を把握することができた。 <課題> ①基礎的・基本的な学習内容の理解が十分でない生徒が少なくなく、生徒間の学力の差も大きいため、生徒の学び直しを丁寧に支援する。加えて、個に応じた発展的学びに対応する指導を充実させる。 ②人間関係を築くのが得意でない生徒が多く、教育相談	1 基礎学力の向上を図り、生徒の授業満足度を高める	ア 授業を積極的に公開して学習指導の工夫・改善を図り、生徒が主体的に学習に取り組める授業を実践する。 イ 少人数授業、T T授業などの個の能力に応じた学習指導を実践し、BYOD(Bring Your Own Device)で持ち込まれた機器を効果的に活用しながら、生徒の学びの質を向上させる。 ウ 授業の中で自分の考えを書く時間を積極的に設け、文章力の向上を図る。 エ 授業内容に興味・関心を持ち、自ら進んで学習に取り組むことができる。	A
	2 学びの場としての環境作りに取り組む	ア ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業を展開する。 イ スクールカウンセラーやキャンパスエイドの支援を得て、教育相談機能を充実させ、望ましい人間関係を構築しながら、安心して登校し学べる環境を醸成する。 ウ 通級指導の活用などにより、生徒の実生活や授業等での困り感の軽減を図る。 エ 図書館の整備により、生徒が読書や学習で利用しやすい環境を整える。	A
	3 基本的な生活習慣の確立を図る	ア 登下校指導や日常の声かけをとおして、服装・頭髮等の身だしなみを正し、挨拶の励行に努める。 イ 遅刻・早退・欠席を少なくし、欠課時数の増加や生徒指導上の問題行動による退学者数を減らす。	B
	4 生命や人権を大切にする態度を育成する	ア お互いを思いやり、尊重する態度を育成し、生徒相互の豊かな人間関係を築く。	B

別紙様式 2 (高)

機能等の効果的な運用により、豊かな人間関係づくりを支援する。 ③キャリア教育を充実させ、生徒の進路意識の向上を図るとともに、多様な進路実現に組織的に対応できるよう、就労支援も含めて体制を整える必要がある。 ④学校公開（授業公開等）や、地域や近隣中学校との交流を推進することにより、本校に対する理解を深め、連携を更に進める。 ⑤基準を超える超過勤務の解消に向けて、校務の精選や業務の割振りの見直しを行う。			イ いじめは、「人間として絶対に許されない」という意識を持たせる。			
		5 進路指導の充実を図る	ア ロングホームルームや進路ガイダンスを充実させ、進路別見学会を実施し、進路情報の収集と提供により、進路意識の向上を図る。 イ 綿密な面談により、生徒や保護者の進路希望を把握し、進路指導の充実を図る。	A		
		6 特別活動の充実と活性化を図る	ア 生徒の自主性を育みながら、生徒会活動を活性化し、部活動の充実を図る。 イ HR活動を中心に、キャリア・パスポートを活用して学びを振り返るとともに、将来への見通しを持たせる。	A		
		7 フレックススクールとしての特徴を生かした教育活動の向上・推進を行う	ア HPや印刷物等により、フレックススクールの教育活動内容を積極的に発信する。 イ 中学校訪問や学校説明会等広報の拡大を図り、保護者や地域社会との連携を推進する。	A		
		8 教職員の資質能力の向上とともに働き方改革により超過勤務時間の減少を図る	ア 校内研修を充実させるとともに、校外の研修に積極的に参加し、教職員としてのスキルアップを図る。	B		
評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科指導	国語	充実した授業を展開する。	生徒の学習意欲を向上させるために生徒の実態に合った授業や評価(テストを含む)を行う。	B	B	・TTの効果的な指導の確立 ・履修者が少ない授業の指導方法の工夫 ・外国籍生徒や一部理解に時間がかかる生徒の指導方法 ・ICTの効果的な利用方法
			科目担当者間での共有を密に行い、学習状況が不十分な生徒へのサポートを充実させる。	B		
			ICTを積極的に取り入れ、生徒が主体となる授業作りに努める。	B		
		基礎学力の向上を図る。	漢字検定の資格取得を奨励し、基本的な学習習慣を継続させるよう努める。	B		
			学び直しの授業を通し、集中して学習に取り組む態度を育成するとともに、思考力・判断力・表現力を育むために必要な基礎的な学力を身に付けさせる。	A		
	生徒に寄り添った授業改善に取り組む。	12月実施「生徒による授業評価」の「授業満足度」項目における評価平均3.2以上。	A			
	地歴・公民	基礎学力の向上を図る。	基礎的・基本的な事項を繰り返し学習する時間を設け知識の定着をはかる。	A	B	新教育課程への移行2年目となった。観点別評価の導入にともなって、適切な生徒観に基づいて、適切な評価規準を設けることがますます重要になっている。各授業担当者がいっそう研究し、議論を深めていく必要があるのではないか。
			生徒の発達や興味関心に応じ、自作教材やマルチメディア教材などの活用を工夫する。	A		
		授業方法の研究に取り組み、授業満足度3以上を目指す。	努力の成果が形として残るようなプリント学習の展開をはかる。	A		
			身近な社会的事象を導入に用いることで生徒の興味を喚起する。生徒の素朴な疑問を拾いあげ、対話的手法を用いながら、知的関心を高める。	B		
		評価法を工夫し、生徒の良い点を伸張するよう努める。	新教育課程に対応した評価について、職員間で情報・意見交換を行い、無理なく継続できる方法を研究する。	C		
	数学	基礎学力の向上を図る。	外部試験を2回実施し、基礎学力の定着度合いを測定する。 基礎学力の向上（KPI）（2回目の試験）＞（1回目の試験）	B	B	数学の苦手な生徒だけでなく、得意な生徒にも個別指導を行い、定期的に自らすすんで学ぶ姿勢をつくる。
			興味・関心を高められるよう、定期試験や学びの基礎診断の結果を分析し、生徒の実態に合った学習内容になるよう工夫する。授業満足度（KPI）「この授業を通して、数学に対する興味・関心を高めることができた。」60%以上	B		
		授業の内容に興味、関心を持ち、自ら進んで学習に取り組むことができる。	関心の高い生徒に対し、個別指導や課題等により、更なる意欲の向上に努める。授業満足度（KPI）「この授業を通して、自身の考えが深まっていることを実感できた。」50%以上	A		

別紙様式 2 (高)

教科指導	理科	思考力・表現力の向上を図る。	ティームティーチング指導をととして、個に応じたきめ細やかな指導を行い、生徒の理解力を向上させる。	A	A	・グラフやデータの読み取りについては、苦手意識を感じる生徒が多いため、適切な支援の方法を検討する。 ・今年度に引き続き、45 分の授業時間で効果的な実習を行う方法を模索し、教科で共有していく必要がある。		
			理科の現象に関して思考を巡らせ、考えたことを表現できるようにする。	A				
			授業満足度（KPI）「この授業を通して、自分の考えを広げ、深めることができた。」70%以上	A				
			中学理科の内容との関連を意識させ、系統的な知識が身につくような授業を展開する。	B				
		生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。	生徒の実態に応じた授業内容・授業方法を精選・工夫することで学習意欲の向上を図る。 授業満足度（KPI）「授業内容に興味・関心を持ち、自ら進んで学習に取り組むことができる。」70%以上	A				
			日常生活と結びつく身近なトピックを授業に取り入れ、その際に視聴覚教材や ICT などを効果的に活用する。	A				
			観察・実験を積極的に授業に取り入れることで学習内容への興味・関心を高める。	B				
			保健体育	体育			生徒の実態を把握し、運動量の確保と生涯を通じて取り組むことができるスポーツを見つけ、生徒の授業満足度を高める。	A
	運動の質の向上を図る。	A						
	保健	正しい意思決定・行動選択ができる能力と保健の知識を身に付けさせる。		A	A			
		学ぶ姿勢を身に付けさせる。		B				
	芸術	音楽		芸術を愛好する心情を育てる。	A	A	・バイオリンの練習をするため、面談期間中に自主練をしに来る生徒の姿が見られたのがよかった。次年度もそういった姿勢を育みたい。（音楽） ・未履修になっていない生徒の作品提出率は今のところ 100%といえるが、かなり大らかに締め切りを設定しているので、もう少しスピードを上げたい。（美術） ・	
				基礎技術の確実な定着を図る。	A			
				個性豊かな表現を伸ばす。	A			
				生徒に寄り添った授業改善に取り組む。	A			
		美術	美術への興味、関心を高める。	A	A			
つくる喜びを味わわせる。			B					
授業を受ける態度を身に付けさせる。			A					
生徒に寄り添った授業改善に取り組む。			A					

別紙様式 2 (高)

	書道	小筆、大筆の特徴に合わせた書に取り組ませる。	小筆、大筆の特徴に合わせた書の表現を確認させて、創作の意欲を持たせる。臨書から漢字仮名交じり文、実用の書へ発展させる。	A	A	
		作品を完成させる喜びを味わわせる。	文化祭、学年末に合わせ、作品づくりを目指す。生徒の希望に合わせ、色紙や篆刻を試みる。	A		
		授業を受ける態度を身に付けさせる。	きちんとした服装を整え、自ら準備、片付けの徹底を指導する。前時後すぐに準備、片付けは次時の授業に間に合わせる。	A		
		生徒に寄り添った授業改善に取り組む。	12月実施「生徒による授業評価」の「授業満足度」項目における評価平均 3.2 以上。	A		
教科指導	英語	基礎学力の向上を図る。	「コミュニケーション英語Ⅰ」や「基礎から学ぶ英語」の授業等を通して、中学英語の既習事項との関連性を意識させながら基礎的・基本的な「読むこと」「書くこと」の能力の向上を図る。	A	A	・多様な生徒の学習能力向上を図る中で、TT の授業でも学びを支えるのが難しい特性の生徒への対応。 ・ICT の効率的な活用。 ・観点別評価と一体化した指導及び評価方法。
			授業を通して、日常生活に結びつく基礎的・基本的な語彙の数を増やしつつ、語彙運用能力の向上を図る。	A		
			観点別評価の工夫を通して、評価と一体化した指導を行い、基礎学力の向上を図る。	B		
		音声面を重視しつつバランスの取れた 4 技能の向上を目指す。	教科書の英文音読練習を繰り返す行うことで、英文に触れた際に自分自身で正しい発音やイントネーションを再生し内容を理解する能力の向上を図る。	A		
			ALT と連携のとれたティームティーチング授業で生きた英語に直接触れさせ、「聞くこと」「話すこと(発表、やり取り)」の能力の向上を図る。	A		
			ICT 等を活用し、教科書に出てくる文法や重要な表現を、具体的な言語使用場面と結びつけて指導をする。	A		
		授業満足度を向上させる。	授業を通して、生徒の取り組みや反応を見極めつつ、定期的に授業に対するアンケートなどを行うことで、7 割以上の生徒が達成感を得られる授業展開を目指す。	B		
	家庭	学習に取り組む姿勢を育成する。	始業・終了時の挨拶・服装指導を徹底させる。学習用具の準備や実習の準備、後片付けを習慣付ける。	A	A	生徒一人一人の学習意欲の向上と基礎学力の定着ができた。さらに向上を目指したい。
		協調性を持ち、基礎学力を身に付させ、各自が基礎学力を活用できる力をつける。	興味・関心を引く教材を使用し、基本的な被服製作・調理実習を楽しみながら取り組ませ、日常生活が改善できる知識・技術を指導する。12 月実施「生徒による授業評価」の「授業満足度」項目における評価平均 3.2 以上。	A		
	情報	パソコン操作技術の向上を図る。	Word や Excel の基本操作を習得させる。 PowerPoint の基本操作を習得させる。 プログラミングの基本を習得させる。 生徒による授業評価「この授業を通して、できなかった（分からなかった）ことができる（わかる）ようになった」60%	A	A	本校生の実態・進路を考慮して実習中心に実施したが、作今の情報トラブル等の発生を考えるともう少し座学も必要かと思われた。
		情報社会について学び、情報モラルの向上を図る。	携帯電話やスマートフォンなど身近な情報機器を教材として取り上げ、情報化が社会に及ぼす影響や課題についての理解を深めさせ、正しい情報モラルが身に付く授業を展開する。 生徒による授業評価「この授業を通して、自分の考えを広げ、深めることができた」70%	B		
	総合	自己管理能力の育成	生徒の興味関心に応じた探究活動や体験活動を通して、学校生活への適応を促す。欠席の多い生徒の割合を減少させる。【チャレンジプロジェクトの指標】	B	B	本年度入学生の不登校経験者は例年より少なく全体の 36%であったため、その目標値を 20%程度(中間時:30%程度)に減少させることとした。中間値ではあるが 12.2%であった。 ネガティブ思考の生徒が多く入学するため、C ANDO リス
		自己肯定感・有用感の育成	内発的動機づけにつながる自己決定の条件を整え、生徒が抱える様々な問題を解消できるように支援し、前向きな学校生活が送れるように教育環境を整える。ポジティブに生活できている 80%以上【チャレンジプロジェクトの指標】	C		
		日本や中国の文化について理解を深めさせる。	日本の伝統芸能や郷土の文化に触れることや、中国の言語と文化について学ぶことを通して、より広い視野を身に付けさせる。「郷土の焼きものや文化」「日本の芸能と文化」「中国の言語と文化」の授業満足度「この授業を通して自分の考えを広げ、深めることができた。」80%	B		

別紙様式 2 (高)

						トのアンケートにより、ポジティブに生活できている割合が80%以上（中間時：60%以上）となることを目標としている。中間値では、ポジティブに生活している割合は、64.4%であった。1月の調査については集計中であるが、大きな変化は見られない。 日本や中国の文化についての理解については、満足度にばらつきがあるものの、通年での社会人教師の授業に戸惑いは見られない。 来年度についても、社会に出す指導を継続拡充してまいります。
B 教科指導	商業	ビジネスに必要な経済に関する仕組みや概念について理解させるとともに、主体的に考える能力と態度を育てる。	単なる知識の伝達のような授業にならないよう、調べ学習を取り入れ、生徒の主体性を重視した学習になるよう心掛ける。併せて、調べた内容の報告活動を通して、思考・判断・表現力の向上を図っていく。授業満足度のアンケートAおよびBの割合8割以上。	C	B	昼間部の生徒の評価は高かったので、夜間部の生徒からも高い評価を得られるように授業を工夫する。
		実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力の育成を目指す。	簿記の学習を通して、読解力や正確な計算力の育成に努める。1月に実施される簿記実務検定3級に半分以上の生徒が受験を希望するように、生徒の学習に対する意識を向上させる。授業満足度のアンケートAおよびBの割合8割以上。	A		
	家庭 (専門)	衣食・保育への興味・関心を高める。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートを通して、食に対する興味・関心を持てるようにし、望ましい食生活が自ら実践できる力をつけるようにする。	A	A	意識改革、学びを生活に生かす実践力が身についた。さらにより発展的な内容も取り入れたい。
			日常生活で関わる衣服の管理、簡単な補修ができるようにする。将来の保育環境を自ら適切に考えられるようにする。	A		
		実習に望む態度を身に付けさせる。	きちんとした服装を整え、自ら準備、片付けの徹底を指導する。	A		
教務		多様な生徒に対応し、基礎学力の定着を図りながら、社会を生き抜く力を育成する。	教員間での授業参観を通して、授業方法を互いに研究する。また、ICT 端末を活用し、生徒が主体的に取り組めるよう学習指導の工夫・改善を図る。 授業満足度 (KPI) : 「授業内容に興味・関心を持ち、自ら進んで学習に取り組むことができる。」60%以上	B	B	・フレックススクールとしての本校の役割とは、何かもう一度確認し、共通認識をもつ。 ・教員同士が気軽に相互授業参観できる環境づくりにも努める
		フレックススクールの広報活動の充実を図る。	学校案内やホームページに工夫改善を加えるとともに学校説明会を通して、フレックススクールとしての本校の役割についての広報活動を行う。	A		
		フレックススクールとしての教育活動の充実を図る。	3部制単位制普通科高校として教育活動の充実・発展が図れるよう、学校評価等をもとに、検証し、学校行事の運営方法等について研究する。	B		
進路指導		ICT の活用を促進し、事務作業に係る時間・労力を削減する。	Google form を用いて進路希望調査の実施・集計を行う。	A	A	次年度の卒業年次の職員団が確定するのは年度末を待たな
			entli for sChool のサービスを利用し、求人票処理の効率化を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

	望ましい勤労観・職業観の育成を図る。	大学・専門学校等の担当者や周辺事業所・職業安定所・地域福祉課等と連携し、進路ガイダンス・進路講演会・進路見学会を企画する。	A		けれどもならないが、若手職員が今後に通ずる進路指導の知識・スキルを身に付け、十分に力を発揮できるよう留意しなければならぬ。進路指導部としては、今後できるだけ見通しと余裕を持って各業務にあたることできるよう、今年度の職員会議資料の項目や、進路指導部および年次の作成した主な文書、行事の日程等を一覧できる表にまとめ、令和5年度事業報告として、次年度ははじめの職員会議で示したい。あわせて、令和6年度の事業計画を作成したい。
		職業体験を推奨し、様々な職種への理解を生徒に促すとともに、社会人として相応しい資質を育む。	B		
	生徒・保護者の実情に即した進路情報の提供を図る。	P T A総会に合わせ、『進路の手引き』を発行し、卒業年次対象の進路講演会を実施する。	A		
		保護者面談の機会を利用して、1年次、2年次、3・4年次就職希望者、3・4年次進学希望者それぞれに向けた文書を作成し、各家庭に配布する。生徒の進路活動への理解と協力を求める。特に進学における資金計画の重要性について啓発することに意を注ぎたい。	A		
		卒業年次と連携し、JASSO奨学金制度の周知と申請手続きの支援を適切に行う。	A		
	組織的な指導体制を構築する。	進路指導部会の場合を有効に活用し、各年次との連携を密にする。部会を年間15回程度開く。生徒の入学から卒業までの一貫した指導計画を全年次に浸透させ、各業務の運営が円滑になされるようにする。また、生徒情報の他、指導法やトラブル対応方法などの知見を共有する。	A		
		部会資料および職員会議資料の内容・形式を整え、部の方針と業務について、職場全体の理解と協力が得られるよう努める。あわせて組織の運営が今後円滑に引き継がれるよう準備する。	B		
	個に応じた指導の充実を図る。	進路ガイダンスや進路見学会において多様な講座・見学先を提供し、生徒の進路希望に沿った意識づけを図ることができるようにする。	A		
		生徒が自ら進路指導室に足を運ぶ機会を増やすよう努め、コミュニケーションを促進する。	B		
	就労支援の充実を図る。	特別支援学校や関係機関との連携を密にし、保護者・生徒の要望・実情に合った情報提供を行う。	B		
		2年次での職業体験を通して、個々の特性と職場での適合を図る一助とする。	B		
生徒指導	生徒指導体制の一層の充実を図り、基本的生活習慣の確立に努める。道徳・道徳プラスの充実度をあげることで、生徒指導の向上を図る。	いじめの未然防止、早期発見のためすべての休み時間を生徒指導主事及び係分担した全教員で生徒を見守る。発見した場合、被害者の安心安全を確保する措置を速やかに講じ、関係機関との連携を図りながら適切に対応する。	B	B	・内規とスクールガイドとの整合性。 ・生徒指導への職員の共通理解、情報共有 ・特別指導時の年次へのサポート体制作り ・特別指導案件は早急に部会を開催する。 ・特別指導に関連する部会には担任も同席し、確実な情報共有を行う。 ・休み時間の巡視の徹底。
		服装頭髪指導やマナー指導の目的を職員間で共通理解し、社会人としての素養を育成する。	B		
		交通安全指導・登下校校指導を行い、生徒の危機管理意識を醸成し、事故の未然防止に努める。	B		
		道徳・道徳プラスにおける授業満足度(KPI)「授業を通して、自分の考えを広げ、深めることができた。」50%以上	B		
		校則を基準にしながら、個々の事情に応じた指導も個別に行う。	A		
	生徒指導に関する教員間の共通理解を深める。	定期的に生徒指導部会を実施し、情報を共有する。	A		
		職員朝会を通して、生徒指導部会の情報並びに適宜必要な情報を全職員に周知し、共通理解の上で、学校全体として同じ方向性をもった指導を行う。	B		
		生徒指導相談員の助言を有効活用して、日々の指導に活かす。	A		
		校内研修会を通して生徒指導に関する知識・理解を深め、個々の職員の指導力向上を図る。	A		
特別活動	生徒が主体的に取り組む生徒会活動を促進する。	生徒会本部役員の付き一回以上の定例会を実施し、課題克服の具体策を話し合う。また、公開定例会を定期的に持ち、広く生徒の意見を取り入れた生徒会活動を促進する。	B	B	文化祭の発展させ、生徒の成長の機会となるようにする。
	生徒会が中心となり、部活動・委員会活動・HR活動の活性化を図る。	生徒会が中心となって、部活動・委員会活動・HR活動と連携することで、生徒一人一人が学校の役割を担えるようにする。	B		
		HR活動を中心としてキャリアパスポートを活用し、教科学習・教科外学習・校外活動の3つの視点で学びを振り返るとともに、将来への展望や未投資を持たせる。	C		

別紙様式 2 (高)

	よりよい人間関係の形成並びに集団生活の構築や、社会参画並びに自己実現に繋がるような行事を企画運営する。	各行事での反省を生かして各部の生徒が偏りなく活動できるようにし、フレックス制に合った実施方法を検討していく。	B		
		生徒一人一人が活躍できる場面を増やし、自己肯定感を醸成する。	B		
保健厚生	心身の健康の保持増進を図る。	各種検診を必ず受診するよう呼びかけ、自分の健康を意識させる。未受診者 5 %未満を目指す。	A	A	・美化委員・保健委員活動において生徒の活動の場を多く作る。 ・各担当職員による安全点検実施の徹底 ・キャンパスエイドの役割について職員の理解を深める
		生徒が安心・快適に学校生活がおくれるように、救急処置・救急体制に万全を期すとともに職員救命講習研修会を実施する。研修会参加率 7 割。	A		
		教育相談・健康相談の充実に努めるとともに、必要場合は、関係専門機関との連携を図り適切に対応する。	A		
	保健教育の充実とともに、生きる力を育む。	薬物乱用防止講話や性教育講演会を年 1 回実施し、生徒の問題行動の防止に努める。	A		
		美化委員・保健委員会活動において、生徒の活動の場を多く作る。年 5 回以上の開催。	C		
		保健室に配置する図書・資料・掲示物の充実に努め、生徒が健康・安全の意識を高めるために役立てる。	A		
	学習環境を整え、環境美化・整備を行う。	学校安全の確保に努め、安全点検を月 1 回行い、破損箇所・危険箇所について事務室と連携して迅速に対応する。	B		
		ゴミの散らかし防止を呼びかけるとともに、分別処理を徹底させる。	A		
		快適な学習環境を維持するため、生徒職員一体となって清掃活動に取り組む。	A		
	個別支援の充実に努める。	学校内における情報の引き継ぎを行い、校内支援体制を充実させる。	A		
		特別支援教育巡回相談や校内研修会を年 1 回以上実施し、支援の方法を学ぶ機会を増やす。	A		
		スクールカウンセラー、キャンパスエイド、スクールソーシャルワーカーと適切に連携を図る。	B		
		特別支援教育コーディネーターと協力し、生徒に関する情報や授業観察等から気になる生徒の状況を把握する。必要に応じて、生徒の生活上の困難が改善・克服されるよう通級指導を充実させる。	A		
渉外	P T A 活動における活動への理解と参加率の向上を図る。	文化祭、研修会等での活動を通じて会員間及び教職員との親睦を深める。	A	A	・本部役員の継続的な勧誘方法。 ・PTA 活動及び規約の見直し。 ・同窓会の活動及び規約の見直し。
		入学式、合格者説明会等において、P T A 活動への参加と協力を呼びかける。	B		
		本部役員と協議して、P T A 行事や委員会における活動及び運営の円滑化を図る。	A		
		気軽に参加しやすい雰囲気作りを心がける。	A		
	P T A 活動の活性化を図る。	広報委員会では、会員の意見をできるだけ取り入れて運営する。	A		
		生徒指導委員会では、一声運動マナーアップキャンペーンを実施する。	B		
図書	図書館を荃崎高校にかかわるすべての人の居場所として機能させることにより、図書館の利用促進を図る。	ヒーリングミュージックを流したり、安心感を得られるぬいぐるみを置いたりして、誰もが心を落ち着かせられる居心地のよい図書館をつくる。	A	A	・図書館を荃崎高校にかかわるすべての人の居場所として機能させることにより、図書館の利用促進を図ることができた。図書館の利用者数は、ここ数年安定的に増加傾向にあり、パンダのぬいぐるみやヒーリングミュージックは生徒からも大変好評なので、次年度以降も継続・推進していきたい。 ・図書だよりを複数回発行し、図書や読書に親しむ態度を育
		四季の移り変わりを感じられる展示や館内レイアウトの工夫を行うことで、毎日 10 人以上の生徒・職員が図書館を利用することを目指す。	A		
		必要な視聴覚教材・機材を購入し、図書館を視聴覚教育の場として機能させる。	B		
		司書教諭(図書部長)を中心に、各教科と図書館を繋ぎ、授業における図書館活用を促進させる。	B		
	図書館の蔵書を充実させて、様々なイベントを開催することで、図書や読書に親しむ態度の育成を図る。	書籍・雑誌等の情報収集に努めて、適切に図書選定を行い、蔵書を充実させる。	A		
		図書委員会と連携して、絵本や民話の読み聞かせ、ミニ教養講座、哲学対話等のイベントを年に複数回開催し、図書や読書に親しむ態度を育成する。	B		
		図書部員全員で分担して、図書だよりを年に複数回発行し、図書や読書に親しむ態度を育成する。	A		
	業務の効率化を図り、持続可能な働き方を徹底・推進するとともに、図書館	図書部長が中心となり、 unnecessary な会議・書類作成等の雑務を減らし、図書部員の業務負担を軽減する。また、勤務時間外の業務は行わないことを部内で徹底し、生徒の見本となるような健全な働き方	A		

別紙様式 2 (高)

	経営に関する知見を深めるように努める。	を体现する。			
		高教研図書部の研修会への参加、長期休業中に自主的な研修を行うなど、図書部員各自が積極的に研鑽を積み、図書館経営に関する知見を深めるように努める。	B		成ることができた一方で、様々な事情によりイベント開催をする余地がなかった。次年度は、図書委員会と図書部共催で生徒が楽しめるイベントを計画したい。 ・蔵書管理システムを円滑に運用することは一貫して課題である。
情報	校務用 PC の保守管理に努める。	使用者による定期的な OS のアップデートを実施できるよう情報提供を行う。	A	A	・すべての家庭でタブレットを購入を絶対にしてもらえる保障がないため、県 iPad の貸し出しの基準の見直し、一部補償の期間を見直しを進言したい。 ・学校の貸し出し iPad のメンテナンスが止まっているので、再開する。
		全職員一人一台の校務用 PC の整備に努める。	A		
		日常業務が円滑に実施できるよう、日々のセキュリティ管理とトラブル対応に努める。	A		
		最新機器の状況等についての情報収集に努め、適切な機器選定を行う。	B		
	教育用情報機器の保守管理に努める。	電子黒板等、教室での教育用情報機器の利用環境の整備を図る。	B		
		電子黒板の使用法を開発し、職員の ICT 活用能力を高めることにより、生徒の授業満足度を高める。「授業の内容に興味・関心を持ち、自ら進んで学習に取り組むことができる。」 50%	A		
		必要な機器の導入・整備・更新を適切に行う。	A		
		学校で保有する Chrome Book、iPad の定期的な保守・点検を行う。	A		
	教育用タブレット機器の保守管理に努める。	教育用必要なソフトウェアの調査・研究、および導入・利用を図る。	B		
		アプリの利用法や活用場面を開発し、職員の ICT 活用能力を高めることにより、生徒の授業満足度を高める。「授業の内容に興味・関心を持ち、自ら進んで学習に取り組むことができる。」 60%	A		
		快適なネットワーク環境の整備を行い、必要な保守点検を行う。	A		
		定期的なソフトウェアの更新に努め、日常利用上のトラブルの減少を図る。	B		
	校内ネットワーク環境を整備し、適切な保守管理に努める。	各種無線ネットワーク機器の定期的な保守点検を行い、トラブルを未然に回避する。	A		
		万が一のトラブル発生に対しては、原因を特定し、必要な解決を図る。	A		
		学内有線ネットワーク機器の保守点検を行い、必要な機器の入れ替えを行う。	A		
一年次	基本的生活習慣の確立を図る。	登校指導時の声掛け、休み時間の観察、生徒面談などを通して状況把握及び生徒理解に努め、問題の早期対応を心掛ける。	A	B	・タブレット利用の習慣化。 ・基礎学力を定着するための方策。 ・基礎学力診断テストの結果を反映し、各教科と連携した教科指導の工夫。 ・進路意識の向上。
		家庭との連携を密にし、服装・頭髮指導等の一貫性のある指導を通して規範意識を高める。	A		
	学習意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	学級においても ICT 端末を積極的・効果的に活用することで、生徒が学習に取り組みやすい環境をつくるとともに、授業でも BYOD をスムーズに活用できるようにすることで、学力向上につなげる。	B		
		外部模試を 2 回実施し、基礎学力の定着度合いを測定する。また、学習意欲の喚起を図る。 基礎学力の向上 (KPI) (2 回目の模試) ÷ (1 回目の模試) > 1	B		
	進路実現のための意識の向上を図る。	学校行事や総合的な探究の時間の活動の中で、生徒の自己理解を深め、進路への関心を高められるようにする。	B		
二年次	基本的生活習慣を定着させる。	登校指導時の声掛け、休み時間の観察、生徒面談などを通して状況把握及び生徒理解に努め、問題の早期対応を心掛ける。	B	B	・社会人になる自覚を高めさせ、生徒の自立心を育成する。 ・卒業に向け、生徒一人一人にとってよりよい進路を実現させる。
		家庭との連携を密にし、服装・頭髮指導等の一貫性のある指導を通して規範意識を高める。	A		
	自ら進んで学習に取り組む態度を育成する。	学級においても ICT 端末を積極的・効果的に活用することで、生徒が学習に取り組みやすい環境をつくるとともに、授業でも BYOD をスムーズに活用できるようにする。	B		

別紙様式 2 (高)

		外部試験の受験や定期試験前の取り組みを通して、自主的に学習に取り組む意識付けや環境作りを行う。	B		
	一人一人の卒業後の進路を具体化させる。	学校行事や総合的な探究の時間の活動の中で、生徒の自己理解を深め、卒業後の進路について具体的な見通しを持たせられるようにする。	A		
		面談や外部試験等を活用し、それぞれの生徒への細やかな情報提供を行うことで、進路指導を充実させ、卒業年度に向けての準備を進めさせる。	B		
三年次	基本的生活習慣の定着とともに社会生活に必要な素養を身につけさせ、社会人となる自覚を高める。	外部の講演会を3回実施し、社会生活に向けた礼儀やビジネスマナーを身につけさせ、社会で活躍できる生徒を育成する。	A	A	- 面接指導から逃れようとする生徒や、動き出しが遅くてなかなか進路を決められない生徒がいた。より早くから動き出し、より綿密に指導する必要がある。 - 進路が実現した生徒の一部に、モチベーションがもたず、授業に出席しない生徒も増えた。卒業後までのライフプランをかんがみた進路の意識を定着させたい
		生徒面談や家庭との連携を密にし、状況把握や生徒理解に努め、問題の早期対応を徹底する。	A		
		頭髪や服装指導を月1回実施し、規範意識を高め、社会人となる意識や態度を育てる。	B		
	自己肯定感を高めることで自主的・主体的に学習に取り組む態度を身に付け、進路実現に向け積極的に行動する力を身につけさせる。	総合的な探究の時間を活用し、それぞれの課題に対して自主的・主体的に解決できる能力を身につけさせる。	A		
		生徒・保護者・教員が正確に情報を共有しながら、生徒の進路実現に向けてより良い選択ができるようサポートする。	A		
		総合的な探究の時間やHR活動を通して、自己分析やクラス活動において成功体験を積み、自己肯定感を高めさせる。年度末にアンケートを実施し、80%以上の生徒が「自己肯定感を高められた」と実感できるようにする。	B		
四年次	社会人としての自立に必要な素養を育む。	少人数の利点を生かし、生徒の理解度や関心に応じた授業展開を工夫する。社会人として恥ずかしくない一般教養を身につけ、卒業後も学び続けることのできる意欲やスキルを涵養する。LHRにおいて、一般常識の問題集に取り組む機会を10回程度確保し、生徒の満足度を高める。	A	A	卒業後社会人として必要な素養を育めるよう、残りの期間も指導し続ける。大学進学者に対しては、進学目標を再度確認し、卒業後の自己実現に向けて指導する。
	多様な特性と進路希望をもつ生徒に対応し、学校内外の人材を活用して柔軟な指導を行う。	保護者との連絡を密にし、時間がかかっても、生徒自身が悔いのない選択ができるよう忍耐強く支援する。指導方針や重要事項を伝達するため、PTA総会・保護者面談等の機会を利用し、年次からの文書を3回以上発行する。必要に応じて学校外の機関とも連携を図る。	A		
	社会人として通用する自己管理能力と適切なコミュニケーションスキルを養う。	遅刻や欠席に対する指導を継続し、各生徒が健康的な生活リズムを確立できるよう促す。加えて、これまで以上に社会の目を意識し、身だしなみや、挨拶・言葉遣いといったマナーの向上に努める。毎月1回の頭髪・服装指導を実施する。	B		

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である